

海外での教育

渡航から帰国までの、アメリカ・カナダでの日本の子どもの教育

現地校：厳しくなる高校編入？

— ある現地高校編入生の相談例 —

今年4月、お父さんの初めての海外転勤に伴って、カリフォルニア州のある高校に編入したAさんのケースです。

編入学年の決定

Aさんは日本で高校1年生を修了しての渡米です。日本は4月2日ですが、カリフォルニアでは12月3日で学年が変わり、日本より早く始まります。7月生まれの彼女は4月の編入時点で11年生（高校2年）編入と告げられました。3ヶ月足らず11年生で勉強し、夏休み明けの9月からは最終学年の12年生となり、現地校には1年数カ月しか在籍出来ないとの決定です。

受講クラス

この学校区のルールとして、編入者の英語力に応じて、3段階に分かれた英語学習者のクラス（ELD1～3）の受講が決まっています。彼女はELD2からのスタートになりましたが、ELD3の履修単位だけが英語の卒業必修単位として認められるというルールも出てきました。

さらに、日本の高校1年生として履修した単位は認めるが、11・12年生の受講単位数と必修科目の単位取得が卒業には必要だとの説明もありました。

高校卒業試験

さらに、カリフォルニア州には高校卒業試験があります。数学はAlgebra 1（日本の中学数学レベル）までで、計算力の高い日本人の生徒は問題なく合格しています。しかし、英語（読解と作文）は10年生レベルの内容の試験で、多くの在校生が合格するのに苦労しています。これまでの編入生の例を見ると、初渡米の日本人生徒には3～4年の英語学習が合格のために必要のようです。渡米1年半程度の学習では「合格できない」とカウンセラーにはっきり言い渡されたとのこと。

卒業出来ない！

Aさんの場合、認められた学年で編入すると、単位取得・高校卒業試験などの卒業資格取得の要件を満たすのがほとんど不可能です。この高校の卒業証書なしに12年生を修了することとなります。

もし、1年下げた10年生に編入出来て、2年数ヶ月在籍できるならば、Aさんの頑張りで、なんとか卒業は出来そうです。そこで、Aさんのご両親は、「1年下げでの編入」を何度も希望しましたが、認められませんでした。

対策・進学は？

もし、アメリカの高校卒業資格を取得したいのならば、高校修了後1～2年かかりますが、アダルト・スクールやコミュニティ・カレッジで必要単位を取得する方法があります。

アメリカの大学への進学を目指すならば、少し変則ですが、高校卒業資格なしにコミュニティ・カレッジで受講・単位取得して、4年制大学に編入する方法もあります。

帰国子女入試を受験して日本の大学を目指す場合は、どうしても高校卒業資格が必要となります。しかし、アダルト・スクールで卒業資格を取り、進学することは可能で、実例があります。

あとは、日本の在籍していた高校に「米高校1年留学」の扱いをしてもらって、アメリカの高校の履修単位を持ち帰って、日本の高校の卒業資格を取ることも可能です。

☆

厳しさの背景

この高校・学校区は全米レベルで優秀な学力成績を上げています。そのため、国内・国外を問わず、多くの編入生や越境入学生がやってきます。その動きがあまりに激しいので10年ほど前から「地元住民の子どもを教育を守る」として、このような厳しいルールの適用が始まったのが実情のようです。